２．事業の概要と成果	
（１）上位目標の達成度	地域に根ざした小児がん患者支援体制については、新しく連携できる現地NGOやボランティア団体や教育省からの理解も得られ、公立学校の現場でも小児がん患者についての啓発活動も実施し、小児がん支援に対する理解が拡大した。医療従事者への研修では感染症対策の徹底や緩和ケア、患者との関係性を学びアルビルにおける小児がん患者の治療環境が改善され、向上した。 　また、患者家族への宿泊先の提供により患者家族の精神的・肉体的な負担を軽減することができ、総合支援施設には患者家族が相談に訪れ、治療や抗がん剤についての質問や悩みに対応してきただけなく、感染症対策のアドバイスを必ず行ったことで、治療や感染症対策の理解促進に貢献してきた。宿泊施設も備えた総合支援施設に関しては期間内に建設され、患者及び患者家族の治療環境場確保された。
（２）事業内容	(1)小児がん患者及びその家族向けの総合支援施設（以下、新JIM-NETハウス）の拡張 1　小児がん患者とその家族が治療期間中に宿泊できる施設と総合支援施設機能を備えた建物を建設 2　施設の環境整備 一階・・・受付、現地NGOのKurdistan save the children及び現地ボランティアスタッフのオフィス、アートルーム、プレイルーム、アクティビティルーム、トイレ 二階・・・食堂、台所、JIM-NETスタッフルーム、セミナールーム、トイレ 三階・・・宿泊部屋（ファミリールーム×2、シングルルーム×3)、台所、トイレ 3　施設運営の実施 ・宿泊施設の提供（病院から100mほどのモーテルを借り上げ、患者家族への宿泊場所を提供） ・相談サービス（ソーシャルワーカーによる週5日の窓口相談及び休日の電話相談） ・レクリエーション活動の企画・実施 ※自己資金にて下記のサポートを実施 ・貧困患者に対する医薬品購入支援 ・患者家族に対する昼食サービス (2)医療従事者や関係者への能力強化研修 1　医療従事者研修（アルビル） ・第一回研修（看護師対象）7月11日,12日実施　講師：金澤看護師 ・第二回研修（清掃スタッフ対象）8月7日実施　講師：ペイマン医師 ・第三回研修（看護師対象）10月17日,18日実施　講師：ペイマン医師 アシム医師 2　ソーシャルワーカー研修（スレイマニア） ・第一回研修(ソーシャルワーカー)　12月17日,18日実施 　講師：ノアマン氏、ヒワ医師 ※看護師を対象とした研修では看護師の責務、看護記録の徹底、白血病と化学療法について、清掃スタッフを対象とした研修では病院で勤務することの責任と感染症対策を中心とした内容の研修を実施。またソーシャルワーカーを対象とした研修ではKurdistan Save the Childrenの全面的な協力により

ヒワ病院でのチームワーキングや患者との関係性（接遇、応対）、緩和ケアを中心とした研修を実施。

(3)地域住民による支援体制の強化
1　教育支援（学校での啓発活動）
教育省からの許可を得て小児がんに関する啓発活動を5校で実施。計画では小学生も対象であったが、内容が理解困難の可能背があるとの理由で教育省より年齢が制限され小学校での実施はされなかった。JIM-NETの活動に賛同したアルビル保健局の医師がボランティアとし啓発活動に協力。

2　青少年活動
15歳から20歳までの闘病中あるいは小児がんの生存者を対象としたスポーツ、音楽、美術などのクラスを開講し、思春期の悩みにも対応した。計6回の実施31名の参加となった。通常関わっている患者及び患者家族の年齢とは違った年齢層であること、また病院から離れている施設のため診察後に現JIM-NETハウスに寄る患者が少なかったことが参加人数の少なかった理由と考える。

3　ピアサポートの組織化
子どもががんに罹患した同じ経験を持つ家族の交流会を計3回実施。医師から病名を告げられた日からの苦労や悩み、生活状況も含め共有する機会を作った。

4　地域のボランティアの育成とボランティア活動の実施
啓発活動やワークショップで8名のボランティアを受け入れ、JIM-NETスタッフによるボランティア講習会を実施。ボランティア育成、募金活動の実施方法が話し合われた。

5　現地NGOとの連携強化に向けた取組み(情報共有のための会議実施)
新JIM-NETハウスの管理・運営についての協議を行った。現地NGOのKurdistan Save the Childrenや現地ボランティア団体global shapersだけでなく、現地NGOで小児がん支援のための教育ボランティアをしているRWANGAも協力団体として新JIM-NETハウスでの活動に協力することが決まった。

（３）　達成された成果

(1)小児がん患者向け総合支援施設の拡大
指標①　新たな総合支援施設が期間内に建設される:達成
完成後、施工会社と共に耐震性や問題箇所がないかの確認を行い、問題がないことが確認された。
指標②　現行の施設と合わせ、受入患者・付き添い家族延べ150名が施設を利用する。: 達成

JIM-NETハウス利用者(2018年3月15日～2019年3月14日):121名

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	3	0	7	7	13	13	31	6	14	6	8	3	10

宿泊施設利用者(2018年3月15日～2019年3月14日):1745名

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	0	4	122	167	162	176	163	170	172	163	185	178	83

IS（イスラム国）の影響下にあったモスルの病院の環境不備及び治安の悪化によりアルビルで治療を受ける患者が再び増加。またシリア難民の患者も増

加傾向にある。患者家族への相談サービスや治療時に必要となる宿泊施設の提供はSDGsに掲げられている「3.4:2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健及び福祉を促進する」という目標に対し小児がんの子どもの死亡率を減少させるという観点から効果的である。

(2)医療従事者や関係者への能力強化研修
指標① 研修後のアンケートで研修内容の理解度を計り、内容の 80%以上が理解される:達成
・研修理解度 ※()内は参加人数

医療従事者研修	①87,5%(34 名)	②90,5%(20 名)	③88,9%(27 名)
ソーシャルワーカー研修	①100%(4 名)		

指標② 総合的な小児がん支援の取り組みに関してガイドラインを作成する。: 達成
研修結果を元に、ナナカリ病院及びKurdistan Save the Childrenと共に看護師とソーシャルワーカーによるチームアプローチについて話し合われ、新JIM-NETハウスで実践する小児がん支援のガイドラインを策定した。

(3)地域住民による支援体制の強化
指標① がん患者を有する地域の学校を訪問し、病気の説明と支援に関する啓発活動を行い、参加した生徒の 80%以上が内容を理解する。:達成
アルビル市内中学校 5 校計 533 名を対象に啓発活動を行い、がんが感染しない病気であることや小児がん支援について実施後の理解度は 100%であった。実施前は「がんは感染する」と考える生徒も多く啓発活動が重要であることが伺えた。

指標② 青少年活動に延べ 100 人が参加する。: 未達成
諸般の理由で学校に通えない 15－20 歳の子どもたちを対象としたスポーツやアートのクラスを開講し、延べ 11 名が参加し参加者の 100%が有意義だったと回答、音楽クラスを通し復学のきっかけとなった子どもが 2 名いた。

指標③ ピアサポートのための交流会が年 3 回行われ、7 割以上がアンケートで有意義だと回答する。: 達成
3 回のピアサポートを実施し 6 名が参加しアンケートで 100%が有意義と回答した。実施前は懐疑的だった参加者だが再度実施要望が出た。(9 月 5 日,9 月 19 日,12 月 10 計 3 回実施)

指標④ ボランティア講習会が実施され、ボランティア自らによる活動の企画書が策定される。: 未達成
啓発活動やワークショップのボランティアに対し講習会を実施しボランティアが主体となり来年度の企画が話し合われたが、ボランティアによる企画書策定までには至らなかった。

指標⑤ 現地NGOとの意見交換会が実施され、課題解決に向けた活動が実施され、報告書が提出される。: 達成
JIM-NETハウスでの活動について現地NGOのKurdistan Save the ChildrenやRWANGAと治療中の子どもたちの勉強のサポートについて話し合われ、病院へ報告し協議の結果、保健省承認のもとボランティア教員が派遣されることが決定した。

（４）持続発展性	イラクでは初となる小児がん専門の総合支援施設（JIM-NET ハウス）が病院敷地内に建築され、今までより多くの患者や患者家族の利用が予想される。病院は保健省管轄であることから運営責任は保健省となる。前例のない施設であることから利用方法やルールの策定を病院側と行い、病院が責任を持って今後運営していくことが見込まれる。次期申請予定のスレイマニアのヒワ病院敷地内の JIM-NET ハウスにおける運営が円滑に進むためにもアルビルでの経験をヒワ病院と共有し、運営ノウハウのトレーニングを実施することでクルド自治区における小児がんの支援体制強化へと繋げる。